



VOL 29

2009年11月号

発行2009年10月28日

日本山岳会 山岳地理クラブ

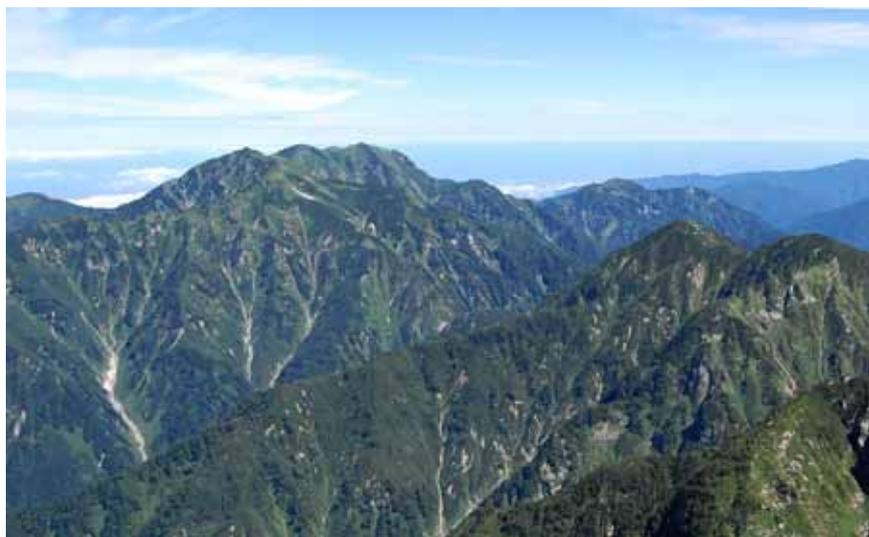
URL www.jac.or.jp/doukoukai/

寄稿

劔岳 水平線の記

板坂 公平

2009年8月12日午前10時ごろ、劔岳早月尾根上の、2610m地点(2614mの標準点のすぐ先の小ピーク)から、北を見た写真です。
(撮影:板坂)



画面の左寄りには北方稜線の毛勝三山。ちょうどその頂上に、横に走る線は、日本海の水平線です。この日は、台風9号が東に去って、半日だけ台風一過の晴れ間が広がり、珍しくくっきりした水平線を見ることができました。写真では伝わりにくいかもかもしれませんが、標高2415mの毛勝山の頂上の位置に海がある、というの、実際に見ると、何だか落ち着かない景色です。

撮影したピークから毛勝山への直線距離は8380m(距離は国土

地理院の電子国土による(以下同じ)。標高差は195mです。見下ろした線をそのまま北へ降りていくと、112kmと190m先で標高0m、海面に達します。位置としては能登半島の先端の少し先ぐらい。計算してみたら、存外近かった。ウラジオストクあたりまで見渡せるかと思ったのですが…。

さて、この112kmという距離、逆から見ると、平地から高山が見える限界の距離になるはずですが、そこで、「遠くから見えた高い山」を思い出してみると…。

まず、東京からの富士山3776mは、ちょうど100kmほどです。山も高いし、軽く条件をクリア。また、わが故郷の金沢の海岸線からは槍ヶ岳3180mが見えます。平地から見える槍としては最遠じゃないかと思っているのですが、距離は96kmで、「見える範囲」に入ります。

さてこれからが問題。東京から、日光の男体山2486mが見えます。距離を測ってみると120km以上あります。このあたりから計算が怪しくなってきます。さらに遠かったのは、丹後半島の伊根沖の定置網をあげる船上から見えた白山2702mでしょうか。まさに水平線の上に浮かんで見えました。漁師さんが「あれは加賀の白山」と教えてくれました。距離は140km以上あります。

水平線の向こうなのに、こっちが見える？ すっきりくっきりした水平線を紹介するつもりが、却ってモヤモヤしてきてしまいました。

やっぱり地球は丸いから、上のような直線的な計算では、正しく測れないのでしょうか？ それとも、そもそも、あの水平線自体がガセモノか？ AGCの皆さん、「ギワクの水平線」どうみますか？

(いたさかこうへい: 中央分水嶺踏査時 AGC 担当区間(大白森山~鎌房山)に協力参加、悪童倶楽部同人、現在電機メーカー勤務)

私のおすすめ

岩手県の鞍掛山(897m)

大西 攻

岩手県のハイキングコースで、四季折々と賑わいを見せている盛岡市近郊の鞍掛山を紹介します。岩手山の南西に位置し、馬の背に乗った鞍の形をした山である。宮沢賢治の作品にも「くらかけの雪」の散文詩があり、また岩手の民話に「岩手山と姫神山は夫婦である。ところが、岩手山は早池峰山に惚れたため、部下の送仙山に(八幡平市にある)姫神山を見えないところに連れて行けと命じた。だがあく朝も眼の前に見えていたので、火を吹いて怒り狂い、部下である送仙山の首を切ってしまった。その首の部分が鞍掛山である」といわれている。小岩井牧場から網張温泉に向かう途中、相の沢キャンプ場の駐車場が登山口である。地元の滝沢村も遊歩道としてキャンプ場周辺の整備に金をかけている。通常コースは2つあり、牧場との境目に沿った林道を歩いて鞍部に向かうコースと、尾根道に沿って登り、ピークを越えて鞍部に出て前者のコースと合流して山

頂に至るコースがある。いずれのコースからでも、登りで1時間半から2時間ぐらいで頂上に着く。春、夏の高山植物は結構多く咲き楽しめる山である。山頂からの眺望は、滝沢村などの町並みをはじめとして近郊の山々がよく望めるし、背後には岩手山が大きく聳えている。そんなノンビリ過ごせる山頂なので、ハイカーたち休息して弁当を食べている。3種類の標石が立っていることなど無関心である。三等三角点(N39°49'15.6"E141°1'23.7")の他に珍しい御料局三角点(N39°49'15.5"E141°1'23.9")、陸軍用地(N39°49'15.5"E141°1'23.6")の標石がある。

明治のころから岩手山山麓に広がる広大な森を国が管理するため、鞍掛山山頂が手ごろな目立つピークだったと思う。それで3種類の標石が固まっていると



推測する。陸軍用地の痕跡としては、現在でもすぐ近くに陸上自衛隊の演習地があり、雷と間違えるくらい大きな大砲の音が時々聞こえてきて脅かされる。すぐ近くの小岩井牧場は有名な観光地になっているが、山好きの人には鞍掛山に登り、その後、網張温泉の湯に浸かって汗を流すほうが、より印象深い岩手の旅を楽しめるのでお勧めしたい。 前写真写真は鞍掛

山山頂、手前から御味局三角点、三等三角点、陸軍用地の標石



御味局三角点

三等三角点

陸軍用地

行ってきました 1

多摩川分水界を歩く

北野 忠彦

9月19日、前回に続いて、荒川・多摩川分水界踏査を行った。うす曇りの中、西武拝島線・多摩都市モノレール線玉川上水駅9:30、森、山田両氏集合。9:40に出発した。とりあえず下流 500 ㍍ほどにある小平監視所わきの玉川上水清流復活の案内板と上水小橋を訪れた後上流沿いに金毘羅橋に向かった。前回の踏査で上水左岸(北側)が緩い上りになっていることを確認していたので都道 55 号線沿いに北西に進む。しばらく日産工場跡地沿いに進み、日産正門前から左折しテストコース跡地にぶつかる。ここから北に向かう道がほぼ分水界と判断された。最近できた巨大なイオンモールに沿って進むと新青梅街道と交差する。これを左折し 500 ㍍ほどで右に折れ、東京水道の水道道路で昼食とした。この先青梅街道を横切り滝ノ入不動尊から尾根にとつこうとしたが道がなく、遊水地用広場を隔てた尾根のすそにとりついた(ここは青梅街道沿いや東の交番? からとりついただほうが正解のようだ)。この一帯は狭山丘陵の西端、都立野山北公園になっている。1/25000 にない建物や広い道など次々に現れて苦労したが、とにかく一番高みにある道をたどっていくと六道山公園となり、これを下った六道の辻に高根遊歩道の案内板があり、それに引っ込まれるが、道は北向きに次第に高度が下がっていくので道を間違えたことに気づき引き返す。六道の辻から車道に向かって下り、道を超えて向いの歩道に上がる。200 ㍍ほど進んで左に折れるとすぐ上の薄暗い林の中に 1 等補点・点名高根があった。三角点は上面がやや欠けていたが保護石がコンクリートで固められていた。ここからも分水界を踏査する予定だったが、道なりに下っているうちにいつの間にか箱根ヶ崎の集落に出てしまい、箱根ヶ崎駅から帰途に就いた。

9月24日、先日の 1 等点からの分水界を確認しようと箱根ヶ崎駅から先日の逆コースをたどって 1 等点に向かった。分水界に至るトレースを見つけようとしたがわからず、しばらくして左手にかなりはっきりとした道を見つけたのでそれを進む。300 ㍍下って前方に民家が見えたので引き返す。お伊勢遊歩道・三角点の看板を見つけ左に折れるとすぐ先が 1 等点であった。ここから先日通った下山路を、1/25000 の三角点から北側を回った登山道の分岐点を目印に下ったが分岐が見つからず、先日と先ほどと通ってきた途中の廃品コレクターの置き場にぶつかったので上り返す。今度は頂上から北側を回ってすぐの尾根に見える高みを 100 ㍍ほど下がるが藪で引き返し先ほどの道を下る。少し降りて右手林の中にトレースを見つけたのでそこをたどると新興住宅地に出、すぐ先が八雲神社、その上に浅間神社が並んでいた。地図上は浅間神社から点線が続いているのでそれを上り、その後もややトラブルがあったが三角点から浅間神社までの分水界は確認できた。なお途中にいくつか立っていた案内板によれば、三角点山は御

伊勢山と呼ばれていると思われた。また三角点北をめぐる点線は分岐点までは存在しないことが確認できた。この後八雲神社からその左手の狭山神社までを踏査しようとしたが、間に割り込んでいた都道 166 号線、国道 16 号線は深い切り通しとなっており尾根をつなげるのは不可能だった。その先多摩川水系残堀川源流の菅の池を回って箱根ヶ崎駅に戻った。

行ってきました 2

須坂基線 PART 2009年10月24~25日 須坂基線(美信三角網)の東西端点と井上山&根子岳の一等三角点の探索に行ってきました。(参加者13名) 詳細は次号で報告いたします

行きましょう

荒川・多摩川分水界探索

日時: 2009年11月21日(土)

集合場所: 青梅線東青梅駅・北口 AM9:00

青梅鉄道付近を出発して 青梅丘陵を歩きます。大部分は道がありますが、一部藪も予想されます。高水を岩茸石山まで行って見たいと思います 地図: 1/2.5万「青梅」「武蔵御岳」

詳細は北野まで問合せください(090-3046-1189)

例会の議事録

10月定例会記録

2009年10月7日(水) 19:05~20:25 於JAC集会室B

出席者15名(北野、平野、近藤、高橋、鶴田(泰)、寺田、寺田、片野、大西、長谷川、川口、関、田中、渡辺(新規)、今井(順不同))

内容: 多摩川分水界踏査報告。9月19日(土)に3名(北野、森、山田(特別参加))で西武線玉川上水駅から三ツ木経由八高線箱根ヶ崎駅間を踏査した。今回は青梅線東青梅駅から青梅丘陵踏査を計画。11月21日(土)を予定している(別掲参照)。(北野) デジタルマップフェア見学報告。10月2、3日に有楽町の東京国際フォーラムで開催された。デジタルアーステクノロジー社から国土地理院の地図を基にした立体地図(色立体 25 万分の 1、5 万分の 1)が 1 枚 500 円程度で発売される模様である。近々同社より紹介予定(近藤) 須坂基線 踏査について最終連絡。10月24-25日に行う。午前10時長野新幹線上田駅温泉口集合。計画書配布、コース説明。(近藤) 基線、点の記について予習を行った(近藤・関) 宮崎副会長から川苔山山頂にある盤石についての質問が AGC 宛にあった(AGC メーリングリスト参照)(平野) 弥彦山の標高問題について 国土地理院宛に正式依頼したらどうか(関)。終了後「鯨の家」で懇親会(15名)。以上 (記録:今井)

お知らせ

新規会員の紹介

・渡辺真一(14629) 埼玉県所沢市 在住

例会日の検討

現在、毎月第一水曜日となっている AGC の例会日について、ルーム使用の状況や、例会のあり方を含めて、次回話し合いたいと思います。出席の都合のつかない方は事前にご意見をお寄せください。

次回の例会

日時 2009年11月4日(水) 18:30 から

於: 山岳会 ルーム

テーマ: 定例会の開催日について、山行報告 ほか

編集後記

今号は分水界踏査でお世話になった板坂さんから原稿をいただきました。今後 AGC レポートにふさわしい寄稿も積極的に掲載したいと思います。

AGC レポート vol-29 2009年10月28日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com